

# Dr. 和の町医者日記



## 不整脈シリーズ④

先日、10代の女性アイドルが急死するというニュースがありました。死因は「致死性不整脈」の疑いがあるとのこと、「死に至る不整脈ってどんなものですか」と尋ねてきた患者さんがおられました。

致死性不整脈とは、ずばり「心室細動」に至る不整脈のことです。心臓の上半分が震える心房細動は前回触れたように、アブレーション手術ないし、抗凝固薬の服用などで様子をみみます。

では、心室細動とはどんな不整脈でしょうか。それは読んで字のごとく、心臓の下半分である心室が細かく震え、心停止に至る最も危険な不整脈です。心室細動が起きると、わずか数秒で意識がなくなり倒れます。たとえ命を取りとめても、3分以

上経過していれば脳に重篤な障害が残ることがあります。救命には、AED(自動体外式除細動器)を使うしかありません。もはや意識がないか、もうろうとしている人がいたら、直ちに119番して救急隊を要請するとともに、都市部ならば周囲の人に「AEDを探して!」と叫んでください。呼吸していな

いか、しゃくりあげるような不規則な呼吸であれば、胸骨を圧迫して心臓マッサージを始める必要があります。1分間に100~120回のテンポで30回続け、それから鼻をつまんで、マウスツーマウスで2回ほど息を吹き込んでください。

AEDが届いたら慌てず、まず電源を入れて、音声ガイドに従って電極パッドを胸に貼りま

す。周囲の人が触れないように注意して、ボタンを押してください。救急隊が到着するまでの間の適切なAED処置で、一命を取り留めた人はたくさんいます。

心室細動は、心臓に持病がある人に起こる可能性がある危険な不整脈です。心筋梗塞後や心筋症、重症心不全、心臓弁膜症がある人に起こり得ます。そうした心臓の持病があることを知らず、ジョギングしたりマラソン大会に出場したりする人がいます。各地のマラソン大会では、スポーツ医学会の医師らが心停止に至った出場者をAEDで蘇生、救命しています。致死性不整脈は、決してまれ

**AED(自動体外式除細動器)** 心室細動になった際、電気ショックを与え、心臓を正常なリズムに戻すための医療機器。平成16年から一般市民でも使えるようになり、駅や空港、学校などの公共施設への設置が増えた。消防白書によると、26年に全国で一般市民がAEDを使用した事例は16664件。京都大学の石見拓教授らグループの研究では、17~25年の9年間に計835人の命が救われたとされる。

## 心室細動はAEDで救命処置を

なものではありません。一般に、心室細動は交感神経が活発になる午前9時前後に起こりやすいといわれています。この時間帯は一日のスタートとして自律神経に負荷がかかり、血圧が急上昇するタイミングでもあります。

過去に心室細動を起こした人や精密検査で心室細動の可能性があると判断された人には、電気刺激で拍動を正常に戻すICD(植え込み型除細動器)を用いた治療を行います。左の鎖骨下にICDを埋め込む手術は2時間程度で、約1週間の入院が必要

です。当院の患者さんでも、スポーツ競技中に心室細動で失神し、駆けつけた救急隊員によるAEDの蘇生処置のおかげで、後遺症もなく日常生活に戻れた人がいます。その人はのちにICD埋め込み手術を受け、なお全国レベルで活躍されています。

主治医としては心配でたまりませんが、ある日の試合中、心室細動が起きてそれを感知したICDが作動したそうです。

「どんな感じでしたか?」「いやー、ドカンという感じでした」と。それ以来、その患者さんとの会話のなかでは、ICDのことを「ドカン」と例えています。最近では遠隔モニタリング機能が備わったICDも使われています。医師がリアルタイムで心室細動の発症を知ることができる時代になってきました。

H29. 4. 18



長尾和宏 (ながお・かずひろ)  
東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。近著「病気の9割は歩くだけで治る!」「薬のやめどき」「痛くない死に方」はいずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。58歳。